

わが国における 中医鍼灸の実態調査 〈前篇〉

編集部

はじめに

1970年代のハリ麻酔ブーム以来、わが国に中国の鍼灸が紹介されるようになって40～50年となった。その間、翻訳や中国との交流を通じて体系的な中医学がわが国に紹介され、近年では鍼灸養成学校の教育に導入されるまでになった。しかし一方で、臨床において中医学を応用している人の数は、それほど多くないという調査結果が報告されたこともある（小川卓良ほか：現代日本鍼灸の実態調査、社会鍼灸学研究 2011）。

そこで、編集部では2016年6月30日～7月31日の期間において、『中医臨床』の執筆者と当社刊行物の読者を対象に「中医鍼灸の実態調査アンケート」を実施した。調査対象が『中医臨床』の執筆者と当社刊行物の読者であるため、本調査結果がわが国の実態をそのまま表したもののとはいえないが、中医鍼灸の実践者あるいは中医鍼灸に関心をもつ者の実態や見解を一定程度反映していると考えられる。

調査の方法

『中医臨床』の執筆者と当社刊行物の読者（当社の顧客名簿から任意に抽出）を対象に、アンケート用紙を郵送し、選択式と自由筆記を組み合わせた形式で回答を呼びかけた。アンケート

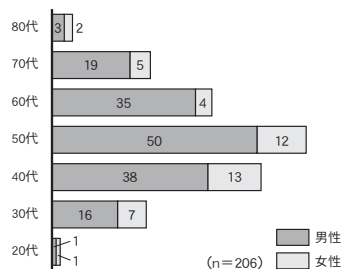
は1千通（そのうち27通は宛先不明で返送）を郵送して207名から回答を得た（回答率：21%）。

結果

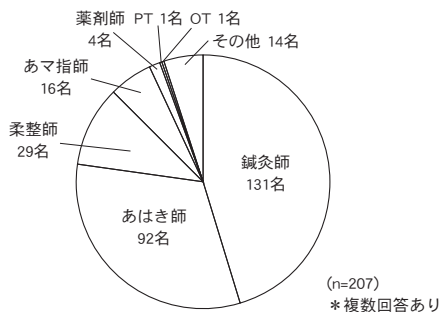
1 性別・経歴等

① 性別：男性 162 名，女性 45 名（n=207）

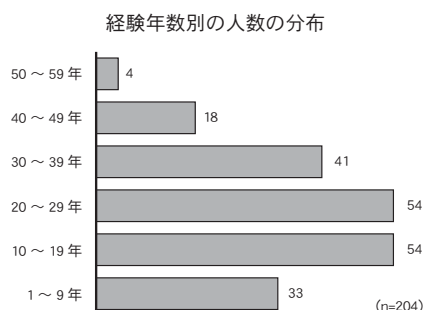
② 年齢：平均 54.2 歳（24 歳－85 歳）



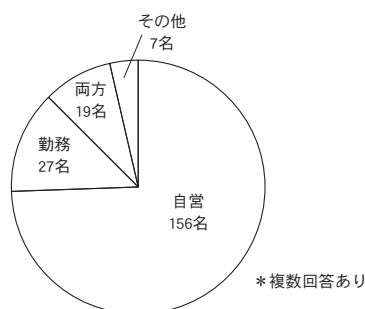
③ 取得医療系資格



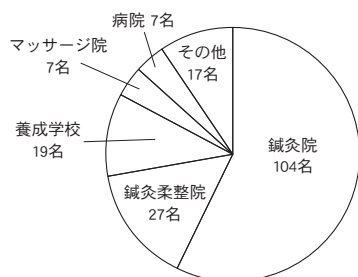
④ 鍼灸の免許取得後の年数：平均 22.6 年
(2 年－53 年)



⑤ 就業形態



⑥ 勤務先 (複数回答可)

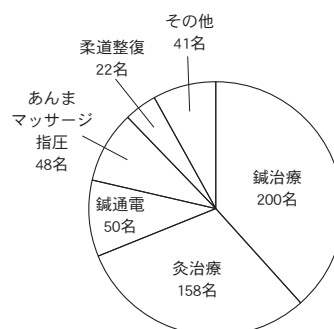


考察

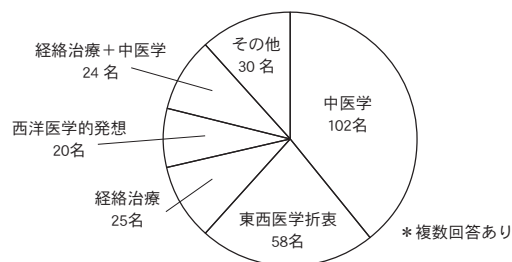
平均年齢が 54.2 歳、鍼灸の免許取得後の年数が 22.6 年と、一定の経験を積んだベテランの方が回答した傾向がみられる。年齢層では 50 代 (30%)、ついで 40 代 (25%) の回答が多かった。

2 治療

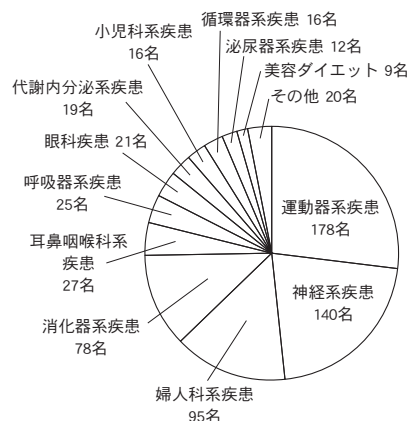
① おもに使う治療手段 (複数回答可)



② 最も重視する治療理論



③ 治療で多く扱う疾患 *上位 3 つ



④ 得意にしている疾患【筆記式】

運動器疾患では腰痛・急性腰痛をあげる者が最も多く、ついで頸肩腕症候群・肩関節周囲炎、さらに膝関節痛と続いた。神経系疾患では自律神経失調症・不眠・めまい・頭痛をあげる者が

多かった。産科系では不妊症が最も多く、マタニティや逆子をあげる者もいた。婦人科系では月経痛や月経不順、冷え性をあげる者もいたが「婦人科系疾患」と一括りにして得意とするものも多かった。耳鼻咽喉科系では耳鳴りをあげる者が最も多く、ついで突発性難聴が続いた。その他に胃腸疾患などの消化器疾患や、循環器系で心痛・狭心症・心筋梗塞・血圧調整・動悸・息切れなどの心疾患、呼吸器疾患では喘息やカゼなどがあった。

考察

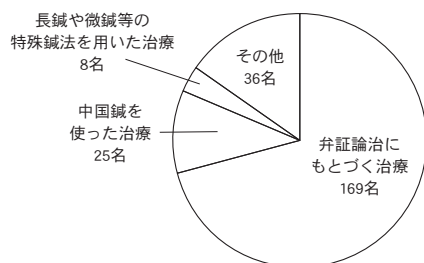
最も重視する治療理論として中医学を主体とする者が49%、経絡治療と中医学を合わせるとした者が12%おり、それらを合わせると中医学を重視している者が61%と多かったが、これは「はじめに」で述べた通り、調査対象者の偏りが関係していると考えられ、日本全体の実態を反映しているとは言い難い。ただし本調査が中医鍼灸の実践者あるいは中医鍼灸に関心をもつ者の実態・意識調査になっているとはいえそうである。

治療で多く扱う疾患は、運動器系疾患と神経系疾患で半数近くを占めるが、多彩な疾患を扱っており、特に婦人科系疾患は鍼灸との親和性の高さが垣間見えた。

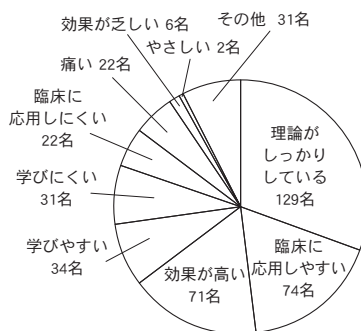
3 中医鍼灸

①「中医鍼灸」をどう定義していますか？

(複数回答可)



②「中医鍼灸」に対してどのようなイメージを持っていますか？ (複数回答可)



③ 中医鍼灸が優れていると思う方にお聞きます。

どんなところが優れていますか？【筆記式】

様々な意見があったが、大きく①体系的、②共通言語、③臨床応用の3点に集約できそうであった。(年齢・性別・免許取得後の年数)

【体系的】

「臨床に使えば使うほど見事に作りあげてくれたと感じる。現行で中国医学を総合的にまとめたものは中医学しかない」(65歳男性・42年)、「理論が優れている。湯液との互換性がある。病理学だけでなく、生理学(正常な状態)ももっている」(54歳男性・21年)、「患者の病態の好転・悪化を推測しやすく、説明もしやすい」(44歳男性・23年)、「体系的な教科書を作ったことにより、教育が容易になった」(60歳男性・28年)

【共通言語】

「針証論治レベルでの議論、他者との診断の評価が可能なところ」(58歳男性・3年)、「みなで理論を共有できる」(38歳男性・13年)、「中医学の針証論治は他の医療者・漢方の医師に説明しやすい」(39歳男性・12年)

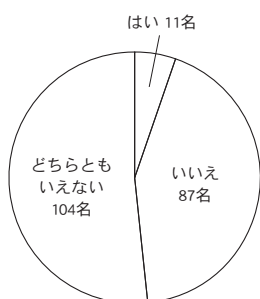
【臨床応用】

「どのような病症にも対応できる」(70歳男性・41年)、「西洋医学で原因不明といわれても原因がわかる」(33歳男性・8年)、「病態の捉え方により効果は変わるが、しっかり針証・病因病機が理解できると効果が出る」(62歳男性・23年)、「効果が高い・臨床に応用しやすい・理論がしっかりしている+適応疾患がきわめて

多い」(44歳女性・8年)、「弁証に従ってまず治療を進めていくことで全体が好転し、主訴改善に早くつながる。未知の疾患に対して入り口となる理論体系があるため(治療を)進めやすい」(62歳女性・30年)

その他には、「証候分類の緻密さ。病因病機という認識が存在しているところ」(46歳女性・22年)、「多様な治療器具を用いる」(40歳男性・15年)といった見解もあった。

④ 中医鍼灸は日本に根付いていると思いますか？



考察

「中医鍼灸」という言葉は頻用されるが、定義は曖昧である。日本鍼灸(経絡治療・現代的な治療・積聚等の日本で行われてきた治療)に対して、戦後(おもに60～70年代以降)になって日本に紹介・導入された中医学の鍼灸を指す言葉として用いられるようになったと考えられるが、本調査では「弁証論治にもとづく治療」と考えている者が82%と多数であった。これは多くの者が「理法方穴術」の体系化された鍼灸治療を想定しているものと思われる。

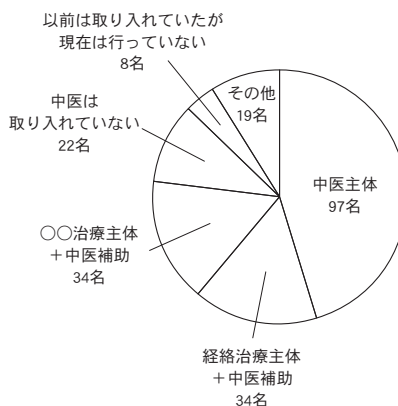
中医鍼灸に対するイメージとして、「理論がしっかりしている」と答えた者が最も多かった(62%)のは予想通りであったが、一般に中医学は理屈ばかりで臨床に応用しにくいと評されることが多いなかで、実践者は「臨床に応用しやすい」(36%)、「効果が高い」(34%)と考えている傾向がみられた。

ただし中医鍼灸が日本に根付いていると答えた者はわずか5%で、中医鍼灸の有用性を感じ

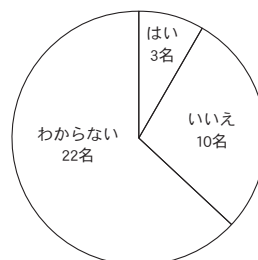
ている実践者も日本での応用はそれほど広がっていないとみていることがわかる。

4 中医学の導入

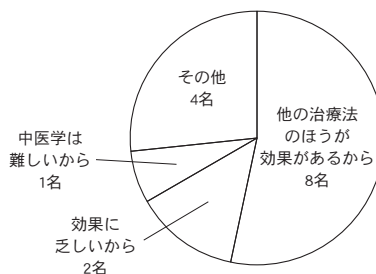
① 現在、治療に中医学を取り入れていますか？



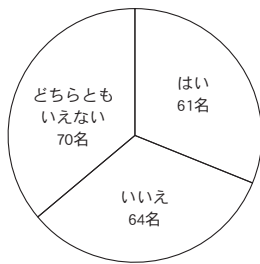
② 中医を取り入れていない方にお聞きします。今後取り入れたいとお考えですか？



③ 以前は中医を取り入れていたが現在は行っていない方にお聞きします。なぜ行わないようになったのですか？(複数回答可)



④ 中医学の学習は難しいと感じますか？



⑤ 難しいと感じる方にお聞きます。どこに難しさを感じますか？【筆記式】

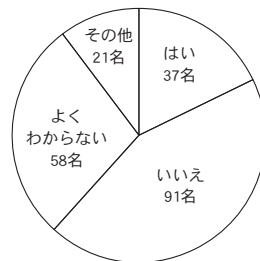
理論の煩雑さや用語の難解さをあげる者が多かった。「理論が膨大すぎる」(70歳男性・41年)、「理論が細かすぎて煩雑になりやすい」(52歳男性・28年)、「理論を理解するのが困難」(68歳男性・19年)、「抽象的・概念的すぎる」(63歳男性・41年)、「用語・概念が不定形なところ」(58歳男性・3年)、「日本では慣れない漢字や語意が多い」(44歳男性・23年)、「漢字，専門用語が難しい」(58歳男性・26年)、「漢文の解釈，臨床応用で矛盾が生じる点など」(49歳男性・28年)、「日本語に合わない」(68歳男性・47年)、「設定された概念が現実には存在しない」(67歳男性・32年)、「弁証が細かい」(64歳男性・13年)、「脈診や舌診等で異なる弁証が考えられ，選穴によっても効果の差がある」(47歳男性・26年)、「日本鍼灸（東洋医学）の理論が頭に入っていて変換するのが難しく感じた」(48歳女性・17年)。

また教育体制の不備をあげる者もいた。「鍼灸学校で習ったが実際の臨床で弁証が合っているかなどのチェックができない」(41歳男性・11年)、「教育体系が構築されていないので難しく感じる」(46歳男性・10年)、「取穴・手技・経穴の効能（穴性）には諸説あり，迷うことが多い。取穴は先生によってかなり違う。手技も違う。穴性の違いよりもこちらのほうが共通の土台で議論するうえで問題だと考える」(48歳男性・22年)

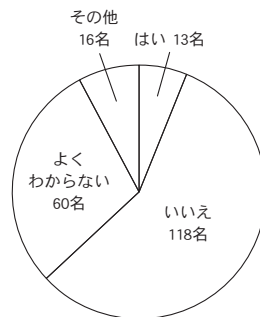
なかには「理論体系を理解するまで（が難し

い）。実践（臨床）のなかでのみ理解が深まる」(66歳女性・39年)、「特に初学時は難しいと思う。その後，中医学の理論に興味を持つことができれば学習は楽しいが，興味を持てないとますます難しく感じ，学ぶことを止めてしまうと感じる（多くの学習者をみて，そう思う）」(46歳男性・25年)という見解もあった。「難しいというより奥が深いと言う方が当てはまる。道ははるかなりです」(48歳女性・17年)という見解もあった。

⑥ 現在，中医鍼灸を学習する環境は整っていると感じますか？



⑦ 現在，中医鍼灸の臨床を研修する場は整っていると感じますか？



考察

回答者の多くは補助的に使うものも含めて中医学を治療に取り入れていた。ただし，学習環境および臨床を研修する環境は整っていないと考えていた。特に臨床研修の場づくりは中医学の普及に欠かせない要件であろう。

(つづく)